

令和6年度 第1回学校運営協議会及び第1回コンプライアンス委員会 報告

1 日 時 令和6年5月22日（水）午後1時30分から3時まで

2 会 場 藤枝特別支援学校焼津分校 相談室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

委員 A、委員 B、委員 C、委員 D 4人

(2) 本校職員

校長、副校長、事務長、部主事、教務主任 5人

4 会議次第

(1) 開会／校長挨拶

(2) 校内参観

(3) 協議

(4) 第1回コンプライアンス委員会

(5) 校長挨拶／閉会

5 会議内容

(1) 開会

ア 校長挨拶

- ・会で御意見をいただき、より良い学校づくりに生かしていきたい。
- ・静岡県内に現在25校特別支援学校があり、去年は富士東高校内に分校、今年は、小山高校内に分校が開校している。

イ 自己紹介

ウ 目的の説明

- ・「学校運営協議会の目的を明確にし、各委員に各自の役割を踏まえて意見をいただくことで、学校運営に対する支援の充実を図りたい」と説明。

エ 日程説明

(2) 校内参観

- ・事前に安全点検表を配布。教室環境の安全について、また、職員の身だしなみや言葉遣い（人権を意識した指導）についても見ていただくよう説明してから参観。

【校内参観を終えて委員の感想】

- ・西側出入り口が開いたままになっていることについて、不審者対策が気になる。
- ・木工室の扉前に置いてある検温・消毒のセンサーが固定されていないため、開けた時に倒れたら危険と感じた。
- ・木工室の棚の固定バンドが、機能していないところが幾つか見受けられた。
- ・挨拶が、上級生ほどできている。1年生では下を向いてしまう子もいた。
- ・防犯カメラがないことを知らなかった。不審者対策として、付けた方が良いのではないか。

(3) 協議

ア 学校運営協議会について

(ア) 規則及び要綱の確認

- ・質問、意見なし

(イ) 会長・副会長の選出

イ 令和6年度の学校経営計画について

(ア) 説明

- ・教育目標を『ひびき合い、つくり合う』中で、力強く生きる人を育てる」とし、「地域で自立し、地域に貢献する人になろう」を合言葉とする。目標具現化の柱として、安心して学べる環境（安全・安心）、学びと成長を積み上げる授業、より良い生活づくりをともに支える関係（連携）、の3つを掲げて取り組んでいく。（昨年度までに了承済）
- ・本年度は、安全・安心の面では危機管理マニュアルの活用や生徒の困りごとの積極的把握、授業づくりでは「責任をもって」をテーマとした校内研修、ICT 端末活用の促進、連携では目標、目的を明確にした交流及び共同学習の充実、なりたい自分に向けた本人の歩みを支えることを重点に取り組む。
- ・教育課程について、昨年度との変更点として、国数及び社会の授業を削減し、LHR を増加。理由は、担任と生徒が話す時間を増やすためと、社会は要素別にみると総合的な探求の時間や地域学習の中に内容が含まれているためである。
- ・部活動については、これまでの4つの部活（サッカー、バスケットボール、音楽、美術）に加え、今年度から兼部を前提として地域活動部を設け、地域のイベントなど対外的な活動に取り組む。
- ・水産高校との交流については、昨年度の協議会で助言いただいた交流後アンケートを実施している。先日行われたサバのくん製交流では、お互いが目的を理解して交流している様子が見られた。自由記述の面では、分校生は初めてサバを捌く経験への感想が多くみられ、その中でも水高生が分かりやすく教えてくれたり励ましてくれたりしたという意見。一方で、水高生は、交流できて嬉しかったという関わりの気持ちよさに関わる感想が多く出ていた。

交流が意味するものについて、アンケートを分析しながら良い活動にしていきたい。

(イ) 学校経営計画について協議（質問意見（・）とそれに対する回答（→））

①安心して学べる環境をつくる

- ・不審者対策として、防犯カメラを設置してはどうか。（ダミーでも効果有）
- ・門扉の設置。学校の中と外の区切りとして門扉はあった方がよい。
- ・入室許可名札の着用を徹底する。BCP対策含む。会社では、災害時の人数等の確認も含め入り口での名簿記入、名札の着用を義務付けている。
→先日、警察の方からも来校者が一目で分かるように名札を着用した方がよいと言われている。入室時名簿と名札は分校にも設置しているが、水産高校の関係者か、来校者か判断できず、徹底していない。
- ・新しく来た教員も安全に木工機械を使用するために、操作講習会を行うとよい。総合教育センターから講師を招く方法もある。
- ・木工機械のマニュアルの見える化。危険回避になる。
- ・心理的な安全性という面で、『こんなことを言ったら恥ずかしい』を感じさせない、お互いを認め合う学級経営をしてほしい。

②学びと成長を積み上げる授業をつくる

- ・国数、特に国語の時間数が少なく感じる。職業教育が中心とは思うが、教科学習ができる子もいるのではないか。新聞やテレビのニュースを理解する、報告書を書くなどの力が必要とを感じる。
→ホームルームの時間に、担任と話して意思疎通を図り、実際のやり取りの中で考える力、伝える力を育てている。その中に国語の学びもあると考えている。新聞やニュースについては、社会の流れを知っていくことは必要なので、朝の会等で取り扱っていく。報告書作成については、苦手な生徒もいる。今後ICTをどう活用していくか、スマホや一人一台端末の利用を進めていく中で考えていく。

③より良い生活づくりをともに支える関係をつくる

- ・地域作業は、分校の合言葉『地域で自立し地域に貢献する』をまさに具現化している。会社の人から直接評価をもらえることは大きい。生徒の特性に配慮していただきながら取り組んでいける良さも感じられる。地域で学んだことを学校でまた生かしていく流れが生徒に力をつけると思う。
→焼津分校は、多くの地域の力を借りている。水産高校内にある特別支援学校という認知も上がっている。
- ・委託作業を行っていることを知らない企業もある。それを広めていくことが必要。企業側は、「こんな仕事もやってくれるの？」という発見から、「これならできる？」に繋がる。
→学校側は、こういう授業やっています、こういう仕事できます、ということを手前に発信していきたい。

(4) 第1回コンプライアンス委員会

ア 不祥事根絶への取組計画説明

- ・生徒の一番近くで働く大人として、生徒の手本となるよう行動すること、明るい挨拶と感謝の言葉かけを推進していくこと等に、継続的に取り組んでいく。また、セクハラ・わいせつ、体罰、個人情報の流出、交通安全、職場の雰囲気作りなど各月テーマや担当を決め、職員一丸となって取り組む。

イ 教職員の生徒指導に係る共通ルールの説明

- ・「教職員と生徒との間でメール・SNSの使用は一切行わない」「生徒・保護者へは、学校の固定電話か学校の携帯電話から連絡をする」、また「生徒との面談や相談は学校で、複数での対応を基本とする」といったルールを教職員、生徒、保護者に周知して守り、安全に安心して学べる学校づくりに努めている。

ウ 協議

- ・学校の対応について、何か思った時はすぐ伝えているが、学校に直接意見を言えない親も多い。教員によって対応に違いがある。あった出来事は教員皆で共有してほしい。そして、正しいことを保護者・生徒に伝えてほしいし、間違いがあったら伝え直してほしい。子ども達はLINEですぐに情報共有しているが、その情報は正確でないこともある。
→起きたことを正確に確認し、伝えていくことと、生徒が言いやすい雰囲気づくりを行っていききたい。

(5) 校長挨拶／閉会

- ・同じ視点に沿って、色々な話を伺えたことが成果。子ども達が安心して健やかに伸びていくために、いただいた意見をどのような形で具体化していくかを考え、教育活動に活かしていきたい。